

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 5月 7日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0176700516		
法人名	株式会社かやのみ		
事業所名	グループホームかやのみ		
所在地	枝幸郡浜頓別町北1条4丁目8番地 (電話) 01634-2-2115		
評価機関名	北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年3月12日	評価確定日	平成20年5月7日

【情報提供票より】(20年2月25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 9人, 非常勤 11人, 常勤換算	8.66人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	17,600 円	その他の経費(月額)	18,000~24,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(2月25日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	5	要介護2	7		
要介護3	6	要介護4	0		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 83歳	最低	71歳	最高	92歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	浜頓別町国民健康保険病院・かもめ歯科・中川町立診療所
---------	----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、「山と海に囲まれた自分らしい生活」・「誇りや個性を尊重した生活」等を理念に盛り込み、菜園が設けられた広い敷地に平成16年に開設された。職員は利用者とともに喜怒哀楽を共有しながら、日々のケアサービスを実践し、利用者同士が交流を深めながら生活している。また、祭り・映画上映会等の事業所行事を実施し、地域住民が多数参加し利用者とともに楽しむなど、地域との交流を深めている。今後も、地域に溶け込んだ生活の継続が期待できる事業所である。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での課題であった「権利義務の明示」について、現在も契約書等に明示するまでには至っていない。今後、職員間で再検討した上で契約書等の書類に明示し、利用者本人・家族に説明し同意を得ることが期待される。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 会議において全職員で話し合い、一人ひとりがシートに記入するなど、全員で自己評価に取り組んでいる。今後も外部評価の結果を踏まえ、全職員で検討し、更なる質の向上に取り組む予定である。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 利用者家族・地域住民・行政職員等を構成員とし、運営推進会議を開催している。会議では、事業所の運営状況・行事等について報告し、活発な意見交換を行い、そこで出た意見を事業所の運営に反映させている。また、会議を通じて地域からの協力が得られるなど、地域との連携強化を図っている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の来訪時に、利用者の暮らしぶりや健康状態等について報告している。また、事業所便りを毎月発行し、利用者一人ひとりの生活状況を記入し、家族に送付している。また、職員は日頃から家族とのコミュニケーションを大切にし、家族が気軽に意見・要望・苦情等を伝えやすい雰囲気作りに努めている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	全職員が地域に根ざすことの大切さを認識しており、町内会に加入し地域との連携強化を図っている。また、事業所の行事に近隣住民も多数参加するなど、地域との交流を深め、地域に根ざした暮らしとなるよう努めている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所において「その人らしく暮らしていくこと」を盛り込んだ、事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内の要所に理念を掲示している。また、毎朝の申し送り時に全職員で理念を唱和して統一を図り、理念を念頭に置きながらその実践に向けて取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	全職員が地域に根ざした生活の大切さを認識しており、町内会に加入し地域との連携を図っている。また、事業所の行事に近隣住民が多数参加するなど、地域との交流が深まるよう努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人ひとりがシートに記入して全員で自己評価を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。前回評価での課題であった「権利義務の明示」については、現在も契約書等に明示するまでには至っていないが、今後改善に取り組む予定である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族・地域住民・行政職員等を構成員とし、運営推進会議を開催している。会議では事業所の運営状況や行事等について報告し、活発な意見交換を行うとともにサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃から行政担当者と連絡を取っており、行事開催・ボランティアの受け入れ・職員育成等において協力が得られるなど、連携を図り、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に、利用者の暮らしぶりや健康状態等について報告している。また、毎月事業所便りを発行し、その便りの中に利用者一人ひとりの生活状況等を追記し、家族に伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は日頃から家族との交流を図り、家族が気軽に意見・要望等を話しやすい雰囲気作りに努めている。また、意見等を受けた場合は職員間で検討し、日々のケアサービスに反映するよう取り組んでいる。また、家族会を設置し、より家族からの意見を収集できるよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動・離職等は最小限となるよう抑え、異動等があった場合は十分な引継ぎ期間を設け、利用者が落ち着いて生活できるよう取り組んでいる。また、異動等について事前に本人に説明し、不安の解消に努めている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、人材育成の重要性を認識しており、職員の知識や経験に応じた研修に参加する機会を設け、職員は、積極的に受講している。また、研修受講後は報告会を開き、情報の伝達やスキルアップを図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部からの事業所見学者を積極的に受け入れ情報交換を行ったり、研修に参加するなど、ネットワークづくりに努めサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に利用者本人・家族に事業所を見学してもらったり、職員が利用者宅を訪問し、面談するなど、事業所の雰囲気馴染んでからの入居となるよう配慮している。また、利用者との関わりを大切に、一人ひとりの心情を汲み取りながら支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の得意な事を見極め、調理方法や野菜作り等を教えてもらいながら支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	独自のアセスメントシートを活用して利用者の状態等を細かく記載し、職員間で情報を共有している。また、家族から収集した情報を基に、一人ひとりの希望や意向の把握に努め、日々のケアサービスに反映させるよう取り組んでいる。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人・家族の意向を尊重し、個人記録を基に計画作成担当者が中心となってカンファレンスを実施し、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1度、介護計画の見直しを行うとともに、利用者の状態変化に応じてそのつど話し合い、見直しを実施している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院時の送迎や買い物・外出時の付き添いなど、本人・家族の希望に応じた支援を行っている。また、長期入院後の在宅生活を支援するなど、柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医への受診支援を行い、受診後には家族に結果を報告している。また、看護師と24時間連絡が取れる体制を整えており、健康状態について本人・家族がいつでも相談できるよう配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期のあり方について指針を定め、意思確認書を作成して家族に説明し、同意を得ている。また、家族や医療機関を交えて話し合い、情報を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の誇りや自尊心を損ねることのないような声かけや対応を心がけている。また、個人情報記載のある書類について保管場所を取り決め、適切に対応している。	○	面会簿の記載方法や使用目的等について、家族に説明するまでには至っていない。今後、家族に説明し、秘密保持の徹底を図ることが期待される。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者の希望を尊重し、一人ひとりの体調や生活歴を考慮し、その人らしい生活となるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、利用者と同じ食卓に着き、和やかな雰囲気の中で食事を楽しんでいる。また、一人ひとりの力に応じて、調理や後片付け等を職員と一緒にしている。また、外食を楽しむ機会を設け、食事が楽しみなものになるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2回の入浴支援を行っている。また、シャワー浴や足浴など、利用者の健康状態に応じた支援を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備・カレンダーめくり・金魚への餌やりなど、利用者の生活歴に応じた役割の支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・買い物・花見・観光など、利用者の希望に合わせた外出支援を行っている。また、事業所の畑での水やりや収穫などを利用者と職員と一緒に楽しむなど、日常的に戸外に出かけられるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は鍵をかけず利用者が自由に外出できるよう支援している。また、利用者が外出しそうな様子の時には職員はさりげなく声かけをし、利用者の安全面に配慮しながら支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の協力を得ながら総合避難訓練を実施し、災害時マニュアルを整備している。また、運営推進会議を活用し、緊急時に地域から協力が得られるよう働きかけている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事・水分摂取量を個別に記録しており、職員間で情報を共有している。また、調理方法を工夫するなど、一人ひとりの健康状態に応じた支援を行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはソファや椅子を設置し、利用者は思い思いの場所で寛いでいる。また、ユニット間にある広いホールは天井が高く開放的であり、光・音・温度等を適宜調節しており、利用者が居心地良く過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた馴染みの家具・仏壇・装飾品等が持ち込まれており、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。また、家族や孫の写真が飾られ、本人が安心して生活できるような空間となっている。		

※  は、重点項目。